

よしざきごぼうあと 1 吉崎御坊跡

所在地：あわらし市吉崎

調査原因：吉崎配水場移転更新工事

調査期間：令和4年11月

調査主体：あわらし市教育委員会

調査面積：10 m²

時代：中世か



位置図 (S=1/50,000)

遺跡について 調査地は、国指定史跡範囲外側の東方に位置し、中世頃の^{ちかしきこう}地下式坑（横穴）^{よこあな}2基で構成される吉崎^{ひがしおやま}東御山遺跡にも隣接しています。掘削工事中、地表約2.4mより下位の北西断面に穴が開いたことから、遺構は発見されています。

主な遺構 検出した遺構は地下式坑（横穴）1基以上です。地下式坑は、地表から下、縦に穴を掘り、次にその縦穴内から横に穴を掘って地下室へ至る構造の遺構です。関東地方では、物品の貯蔵施設もしくは埋葬施設の墓として中世～近世に多く造られています。開口した穴は地下室となる横穴の奥側にあたり、反対側の壁中央の土砂が入り込んだ箇所が本来の出入口の縦穴部と思われます。縦穴を除く横穴部は、長さ約3.2m、幅約2.4mのほぼ長方形です。遺構は埋め戻して保存するため、縦穴部は未調査です。また、岩盤ではなく砂層に構築されているため、天井崩落の恐れがあり、掘削は床面まで行っていませんが、天井の最も高いところまで現状約1.9mです。

縦穴両脇の壁面が小さく掘り窪められており、その天井が^{すす}煤けて黒ずんでいることから、そこに照明用の^{とうみょうざら}灯明皿を置いていたことが想定されます。

横穴は開口部北東下方の調査区外へと延伸していますが、地表下4m以上と深く危険なこともあり、ここの調査は断念しました。よって、^{ぜんしつ}前室と^{こうしつ}後室の^{ふくしつ}複室構造をした1基か、別にもう1基で計2基とするべきか、明らかにできませんでした。

主な遺物 床面まで掘削していないこともあり、地下式坑の構築時期を示す遺物は何も出土していません。しかし、隣接する吉崎東御山遺跡の地下式坑と同様、中世頃の墓の可能性が最も高いと考えられます。 (橋本幸久)

